

保健衛生学

責任者・コーディネーター	衛生化学分野 杉山 晶規 教授		
担当講座・学科(分野)	衛生化学分野、薬物代謝動態学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 19.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

ヒトの病気を理解するには、個々の患者における病因や病態を調べるだけでなく、ヒトを集団として捉えて解析する疫学的手法が重要な方法となっている。これまで疫学的手法を用いて、様々な疾患の病因、環境要因、宿主要因が明らかにされ、さらに発症に関する危険因子や防御因子が見いだされている。本講義では、ヒトの健康および疾患を、社会集団の観点から理解するために必要な保健統計や疫学について学ぶとともに、感染症や生活習慣病などの疾患の現状とその予防法を解説する。保健衛生学は、2 学年で履修した、食品衛生学や環境衛生学の学修内容も一部基盤としている。また、この科目の学修は、4 学年後期に履修する実践衛生薬学の応用的思考能力を形成するための基盤となる。

・教育成果（アウトカム）

保健統計と疫学の基礎を学び、さらに感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識を習得することにより、社会における集団の健康と疾病の現状を把握し、公衆衛生の向上に貢献するための基盤が形成される。
(ディプロマ・ポリシー：3,4,7,9)

・到達目標（SBO）

1. 保健統計の概要とその意義、わが国における変遷について説明できる(488,489,490)。
2. 健康と疾病の概念の変遷と現状について、その概要を説明できる(487)。
3. 疫学の役割、種類とその方法について説明し、主なリスク指標を計算できる(491,492,493,494)。
4. 目的に応じた疫学研究の手法を選び、その研究の概要を説明できる(☆)。
5. 疾病予防の基本的な考え方と、わが国及び世界（WHO）の健康増進政策を概説できる(495,496)。
6. 感染症の現状とその予防について説明できる(497,498,499,500)。
7. 生活習慣病の現状と危険因子について説明できる(501,502)。
8. 母子保健の概要と、関連する疾病の予防策について説明できる(504,505)。
9. 主な職業病を列挙し、その原因と疾患の概要を説明できる(506)。
10. 労働衛生管理について説明できる(507)。
11. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する(503)。

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/2	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>概論、人口統計</p> <p>1. 保健統計の概要とその意義、わが国における変遷について説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/4）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/9	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>健康と疾病の現状</p> <p>1. 健康と疾病の概念の変遷と現状について、その概要を説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/11）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/16	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>生活習慣病（1）</p> <p>1. 生活習慣病という概念を説明できる。</p> <p>2. 生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧）の現状と危険因子について説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/18）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/23	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>生活習慣病（2）</p> <p>1. 生活習慣病（糖尿病、COPD、メタボリックシンドローム）の現状と危険因子について説明できる。</p> <p>2. 健康増進法と健康日本 21 について概説できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/25）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>

4/30	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>疾病予防概論</p> <p>1. 疾病予防の基本的な考え方と、わが国の健康増進政策を概説できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/2）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/7	火	1	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	<p>感染症（1）</p> <p>1. 感染症が発症するまでの過程を概説できる。</p> <p>2. 感染症法の基本的な考え方と、主な対象疾患を概説できる。</p> <p>3. わが国及び世界で問題となっている主な感染症を挙げ、それらの特徴や現状について説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/9）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/13	月	2	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	<p>感染症（2）</p> <p>1. 感染症予防の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>2. わが国で実施されている予防接種について説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/15）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/21	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授 米澤 穂波 助教	<p>中間試験</p> <p>1. これまでの講義内容の理解度や定着度を確認する。70%以上の得点率を目標とする。この時期での到達目標を少し高めとすることにより、最終的な達成度を向上させることができる。</p> <p>事前学修：これまでの授業範囲を総復習すること。</p> <p>事後学修：試験問題を復習し、知識定着の完成度を高めること。</p>

5/28	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授 米澤 穂波 助教	<p>中間まとめと母子保健</p> <p>1. 母子保健の概要と、関連する疾病の予防策について説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/30）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/4	火	1	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>疫学（1）</p> <p>1. 疫学の役割、種類とその方法について説明し、主なリスク指標を計算できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/11	火	1	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>疫学（2）</p> <p>1. 目的に応じた疫学研究の手法を選び、その研究の概要を説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/18	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授 米澤 穂波 助教	<p>生活習慣病（3）</p> <p>1. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議できるようになる。</p> <p>【PBL、プレゼンテーション、調査学修】 【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学修：これまでの講義の資料や新聞、書籍、ネット情報等を収集しておくこと。</p> <p>事後学修：他学生の意見を聞き、新たに発見したことや自分の意見との相違点等をまとめておくこと。</p>
6/25	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	<p>学校保健、産業保健など</p> <p>1. 学校保健の概要と学校薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>2. 主な職業病を列挙し、その原因と疾患の概要を説明できる。</p> <p>3. 労働衛生管理について説明できる。</p> <p>【双方向授業】 【ICT (Moodle)】</p>

					<p>事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：6/27）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
--	--	--	--	--	--

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	衛生化学詳解 上 第3版	浅野 哲、阿部 すみ子、荒田 洋一郎、大塚 徳、川嶋 洋一、工藤 なをみ、杉山 晶規、吉成 浩一	京都廣川書店	2020

・成績評価方法

定期試験（80%）、中間試験（20%）で評価する。

・特記事項・その他

・予習復習のポイント
 授業に対する事前学修の時間は予習 15 分、復習 30 分を要する。
 討議に対する事前学修の時間は予習 30 分、復習 20 分を要する。
 中間試験前には 3 時間程度、定期試験前には 7 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。
 復習は積極的に行い、講義のプリントを確認し課題にも取り組むこと。

・試験や課題に対するフィードバック等
 提出された宿題プリントは、添削・採点して返却するとともに次回の講義の冒頭で、内容についてフィードバックする。中間試験は、結果について個人成績カルテを作成、返却し、解説を行う。定期試験後には、フィードバックとして補講等を実施する。宿題プリントには、講義に関する学生の要望の記入欄を適宜設け、要望を講義に反映する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	スライド投影のため
講義	デスクトップパソコン	1	講義資料作成